

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

長野県 豊丘村

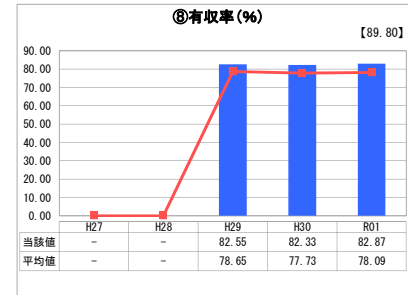
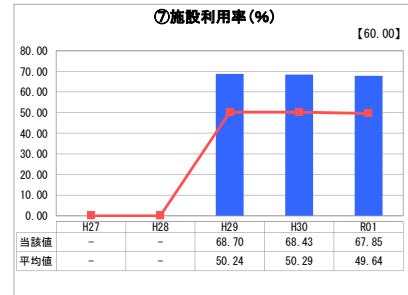
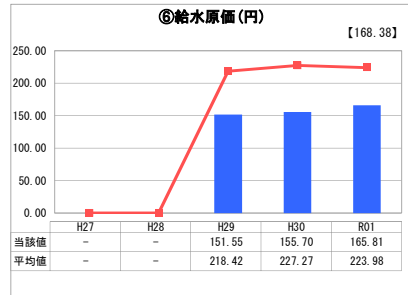
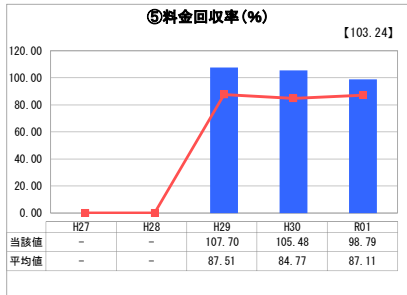
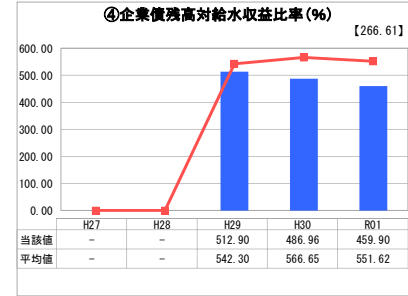
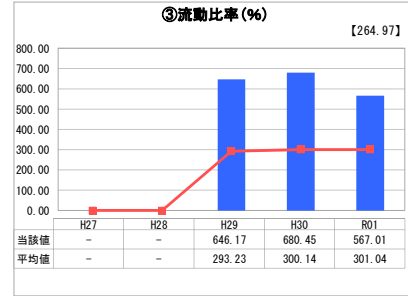
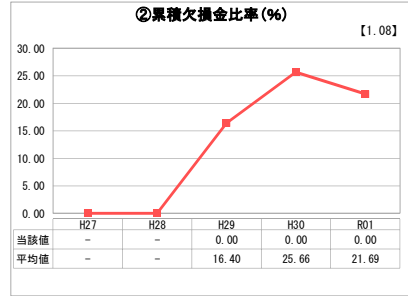
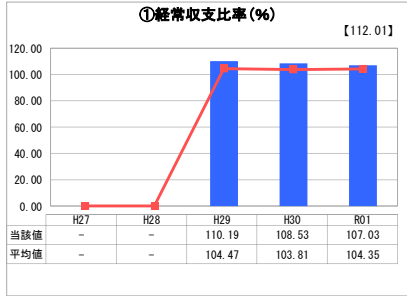
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	69.09	99.15	3,230	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,707	76.79	87.34
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,661	19.00	350.58

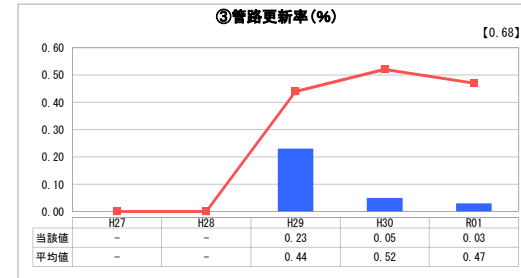
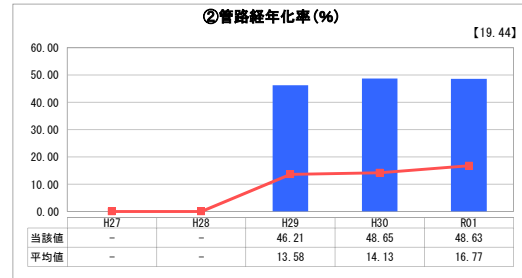
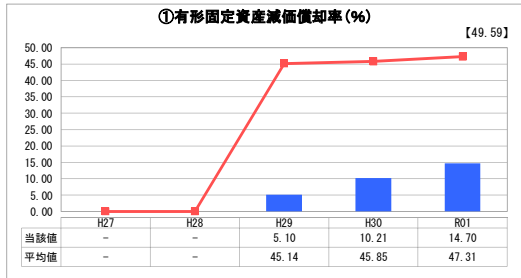
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率において、営業収益における給水収益以外の繰入金金は、旧簡易水道事業における企業債の元利償還金であり、その内容は一般会計からの基準内繰入金として制度上認められた繰入であることから、経営状況は健全と読み取れる。

しかし、施設の老朽化が進んでおり、今後は更新事業費の財源確保も必要となってくるため、引続き健全運営を行えるよう経営の効率化を進めていきたい。

料金回収率については、近年計画的な修繕等を行っており減少傾向になっている。今後は修繕費の平準化等を徹底するとともに、漏水調査等を行い突発的な修繕工事を未然に防ぎながら、適正な料金水準を検討して行く。

施設利用率については、平均値以上の比率であり、適正水準の施設規模にて収益が確保できている状況である。今後も現状の取組を維持し、施設更新時には更なる規模の適正化についても検討して行く。

有収率については、集中的な漏水修理工事への取組み等の結果、上水道事業に移行しても平均値以上の高い比率を有していることから、今後も取組を継続して行く。

### 2. 老朽化の状況について

H23～25年度において、村内の旧堀越・長沢簡易水道地区の管路の全更新事業を実施した。

当村の水道事業全体としては、H29年度の上水道事業への移行に伴う水道施設の試算調査・評価が実施されたため、管路の経年変化率等の指標が活用できる状況となった。

その結果、特に管路においては今後10年間で経年変化率が84%に達することが明らかとなった。

令和元年度に経営戦略（アセットマネジメント計画）を策定し令和2年度では更新計画を作成。令和3年度から行う更新事業の国庫交付金に対する更新事業のヒアリングを行った。

### 全体総括

上水道事業への移行に伴い、各種財務諸表・指標等が整理され、当村の水道事業及びその資産の状況が明らかとなってきた。

現在、アセットマネジメント計画（資産管理計画）を基に更新計画を策定し、令和3年度から計画的な更新事業に着手する。

しかし、更新事業は施工期間20年間と計画しているが、事業には多額の費用が掛かる。適正な料金水準等の把握し、料金審議会を開催予定である。

更なる経営健全化への取組を行い、持続可能な水道事業としての安定経営を目指す。